

Y06a 星のソムリエのための「星空の文化に親しむ」講義要綱の改訂について

柴田晋平, 甲田昌樹, 渡邊瑛里, 安藤享平, 熊谷美恵, 富田晃彦, 水谷雅寛, 藤原 智子, ほか星空案内人資格認定制度運営機構機構サポーター

星空案内人(星のソムリエ)資格認定制度カリキュラムのなかでは内容の精選がもっとも難しい科目の一つが、「星空の文化に親しむ」という科目であろう。内容が多岐におよぶので、定まった学問大系に沿うことが難しく、また、この分野の教材研究が少ないためである。星空案内や講座の現場の実情を考えると、現行の認定基準や教科書の内容はやや難しくレベル設定の見直しが必要であった。2012年の機構の誕生以来この科目の内容について、天文学史などの該当分野に詳しい講座講師や星のソムリエの意見を取り入れて機構で原案を作成し、毎年開いているシンポジウムでの議論を経て、内容の検討を重ねてきた。その結果、新しい要綱案がまとまったので紹介する。この科目の目的は、「星空や宇宙」と「人」との様々な関わりについて学ぶことによって星空案内を豊かにするために現場に必要な事項を学ぶことにある。以下の項目より構成されている：(1) 星・星座の呼び名とその起源、(2) 星・星座にまつわる神話、説話など、(3) 暦の仕組み、(4) 太陽・月、星にまつわる風俗・習慣、(5) 星占い、(6) 宇宙観の変遷。これらの項目はさらに小項目にわかれており、その小項目の中から各制度実施団体が選択して講座を開講する。ただし、以下の小項目は必須としている：現在使われている88星座の成立過程、旧暦の仕組み、太陽暦の仕組み。改訂にあたっては、この分野の研究の立場でなく、現実の星空案内活動で使うことを念頭に置いた。また、実際の受講生を想定した難易度にした。さらに、星空案内人制度のカリキュラム全体の中での整合性、この科目にかけることのできる時間数も考慮した。いろいろのエピソード、固有名詞の呼び方などには寛容の立場を取っている。